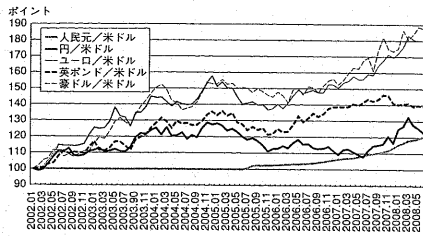
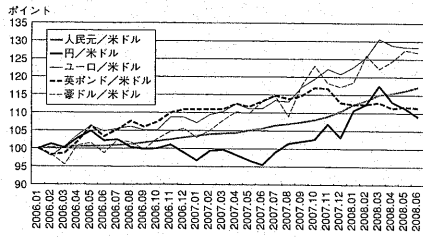


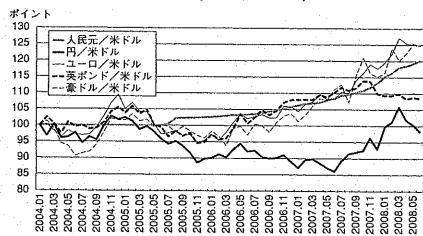
図表1 米ドル基準での各国為替レートの推移 (2002年1月=100)



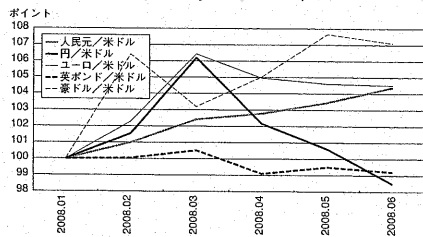
図表3 米ドル基準での各国為替レートの推移 (2006年1月=100)



図表2 米ドル基準での各国為替レートの推移 (2004年1月=100)



図表4 米ドル基準での各国為替レートの推移 (2008年1月=100)



図表1~4は、米ドルに対して主要国の為替レートがどのように推移してきたかをスタート時点を変えたうえで描いてみたものだ。4つのグラフを掲載したのは他にもない、米ドルが円以外の通貨に対して絶対的に弱かったことをことさら強調するという恣意性を排除するため。

さて、これでお分かりかと思う。スタート地点をどこにとっても、最近(6月20日現在)の各国通貨の対米ドル相場のうち、当初時点よりも下落しているのは「2004年1月をスタート地点とした場合の日本円」「2008年1月をスタート地点とした場合の英ポンド、日本円」のみだ。

**よりリアリティを持って認識し、情報提供をする**

あるいは「米ドルは日本円に対しては強いが、それ以外の多くの通貨に対しては下落している」という。しかし、私が見るところでは「ほらこのとおり」と、具体的な証拠が紙面などに掲げられているケースはとても少ないのだ。

「それ以外のあらゆる時期において、あらゆる通貨は米ドルに対して高い水準にある。つまり、これが「日本円を除くあらゆる通貨に対して米ドルは下げている(米ドル安だ)」ことの具体的な内容なのだ。

さて、「米ドルは日本円以外のあらゆる通貨に対して下げている」ことを、証拠(データ)なしに理解している人(例えばAさん)と、「やはりこの程度にはね」と実際にこの図表1~4を日常的にご覧になっている人(Bさん)とで何が異なるのか?

私がある銀行の顧客であったたしように。そしてローカウターの外にいて担当者から「米ドルは日本円以外のほとんどの通貨に対して下げているから」という説明を聞くに際しては、Aさんからはなく、ぜひBさんから聞きたいと思うのである。

どんなことにせよ、できる限りよりリアリティを持ってそれを認識、理解しておられる方からその情報を聞きたいと思うのである。

**地**

動説を最初に唱えたのは言うまでもなくコペルニクスである。1543年のことだといふ。「コペルニクスの転回」といえば、「モノの見方なり考え方が従来とは180度変わることを(変えること)だ」。

それから66年を経た1609年に、ガリレオは自ら発明した望遠鏡を用いて天体を観測し、太陽の黒点、月のクレーター、木星の衛星などを観測する過程で地動説を強く主張するに至った。

さて、望遠鏡がまだなかった時代における地動説と、ガリレオの望遠鏡で遠くまで観測できるに至った時点での地動説とは何が違ったか。

もう少し分かりやすい例で言おう。地球が丸いことを先生から教わっただけの児童と、実際に銚子まで出かけて犬吠崎の突端に立つ灯台の上から周りの海を見渡して「ああ、本当に地球って丸いんだ」ということを実感した児童との現実の知り方には明らかに違いがありはしないか?

日常的にいろいろな金融問題に

触れていると、ともすれば私の頭にはこうしたイメージが去来する。

**理屈だけではなくデータを見たうえで納得する**

金融に関する様々な問題については「理屈だけではなく実証データを通じてそのことを知ってもらいたい」と思うことが多い。例えば多くの金融機関職員の方々は以下のような基本的な経済メカニズムを、それなりの理屈のもとで理解されていると思う。

- ①債券と株式の相場は逆に動きがち(あるいは株価と債券利回りは同じ方向で動きがち)
  - ②円安になればおおむね国内のインフレ率は上昇する
  - ③株価は企業利益を先行的に示す
  - ④WTI原油価格が急上昇するときには米ドルは売られて安くなる
  - ⑤ドル相場が急落するときにはNYダウは下落、その動きを継いで翌日の日本株市場は一段安からスタートすることが多い
- さて、これらの経済現象間の関

**角川総一の**



**マーケット・リテラシー**

金融市場を読む、解く、話す力を養う

File.028

あなたはどこまでのリアリティを持ってマーケットの動きを語れるか?

**理屈だけではなく実証データを基に経済メカニズムを理解すべきだ**